

## 複合名詞を使った発音指導

稲葉生一郎

カリフォルニア州立大学サンノゼ校

### Abstract:

The mora-based theory (Higurashi 1983, Tsujimura and Davis 1987, Sato 1989, Poser 1990, Uwano 1997, and Akinaga 2001) divides Japanese compound nouns (N1・N2) into two types—‘short’ compound nouns ( $N2 \leq 2$  morae) and ‘long’ compound nouns ( $N2 \geq 3$  morae). It is agreed in the literature that predicting the accent pattern of ‘short’ compound nouns is difficult, but the accent pattern of ‘long’ compound nouns can be predicted to a certain extent by finding the position of the N2’s accented mora.

Inaba (2002) focuses on ‘long’ compound nouns and examines their accent patterns based on a metrical approach. He extracts a series of ‘long’ compound nouns from the NHK Dictionary of Pronunciation and Accents (1998) and examines according to the rules of metrical phonology (Hayes 1995). It has then become clear that there exists a difference (dividing line) in the rhythm construction process for N2’s composed of 3 or 4 morae and N2’s with 5 or greater than 5 morae.

In this paper, I will attempt to demonstrate a practical application of Inaba (2002) to teaching the rhythmic patterns of Japanese compound nouns.

### 1. はじめに

日本語（共通語）において、単純語（和語・漢語）のアクセント核位置は、基底表示される必要があると一般的に考えられている（例：「箸」：/は<sup>1</sup>し/、「橋」：/はし<sup>1</sup>/、「端」：/はし<sup>1</sup>/）。つまり日本語学習者は、正確なアクセントで発音するためには、単純語のアクセント核位置を正しく認識する必要がある。例えば、単純語としての「外務」/が<sup>1</sup>いむ/は頭高型（高低低）、「省」/しょう/は平板型（低高）、「改革」/かいかく/は平板型（低高高高）として、アクセント核位置、あるいはアクセント核の有無を認識して、正しいアクセントで発音する必要がある。しかし、もし学習者が複合名詞、「外務省」を意味して、「が<sup>1</sup>いむ・しょう」（高低低・低高）、あるいは「外務省改革」を意味して、「が<sup>1</sup>いむ・しょう・かいかく」（高低低・低高・低高高高）と、一語ずつ正確なアクセント型で発音しても、非常に不自然に聞こえる。つまり、各語のアクセント型は正しくても、一つの単位にまとまった複合名詞としては、不適切なアクセント型になってしまう。

一方で、主要新聞に目を向けると、多種多様な複合名詞が使われていることが判る。例えば、今日の朝刊一面にも「医療制度、医療機関、医療費負担、資金管理団体、単独採決、政治献金」など、数え切れないほどの複合名詞が使われている。つまり、学習者

が各語のアクセント核位置を知ること大切だが、一単位にまとまった複合名詞独自のアクセント核位置を知ること非常に有用であることが判る。そこで、単純語の組み合わせから成る膨大な数に上る複合名詞のアクセント核位置が、各単純語のアクセント核位置に関係なく、予測できるとすれば、学習者にとって朗報と言える。

稲葉 (2002) で、‘長い’ 複合名詞 (N1・N2) を、 $3 \text{ 拍} \leq N2 \leq 4 \text{ 拍}$ と  $N2 \geq 5 \text{ 拍}$ に大別し、N2 が 3 拍と 4 拍の複合名詞のアクセント核は「第一フット核に置かれる」、そして N2 が 5 拍以上の複合名詞のアクセント核位置は「最終フット核に置かれる」と一般化した。本稿では、これらの一般化した規則に基づいた実用的な発音指導法を提案する。

## 2. アクセント核位置とアクセント型

まず、アクセント核位置とアクセント型の基本的な関係を確認する。共通語のアクセント型は、アクセント核位置によって決定される。アクセント核位置とは最後の高ピッチモーラの位置で、そのモーラより前は高ピッチモーラ、後ろは低ピッチモーラが続く。例えば、アクセント核が語頭にある場合 (頭高型)、アクセント核が置かれるモーラより後ろは、低ピッチモーラが語尾まで続く。また、アクセント核が語中にある場合 (中高型)、アクセント核が置かれるモーラより前は、高ピッチモーラが続くが、後ろは低ピッチモーラが続く。ただし、アクセント核が語頭にある頭高型を除いて、語頭のモーラはピッチが低い。アクセント核が最終モーラにある場合 (尾高型)、語頭モーラを除いて、高ピッチモーラが続く。また、アクセント核が無い場合 (平板型) は、尾高型と同じアクセント型になる。これは、デフォルト規則によって、高ピッチ (アクセント核) が最終モーラに付与されると考えれば、理解し易いかもしれない。語内で一度下降したピッチが再び上昇することは無い。もし再び上昇した時は、二語目の存在を意味する。(アクセント核を ‘ $\uparrow$ ’ で示す。)

頭高型	中高型	尾高型	平板 (無核) 型
$\mu \uparrow \mu \mu$	$\mu \mu \mu \uparrow \mu \mu$	$\mu \mu \mu \mu \mu \uparrow$	$\mu \mu \mu \mu \mu$
高 低 低	低 高 高 低 低	低 高 高 高 高	低 高 高 高 高

そこで日本語学習者は、単純語のアクセント核位置が分かれば、そのアクセント型を上記の様に予測できる。

### 3. 複合名詞に関する研究

一般的に、全部要素 (N1) と後部要素 (N2) が複合する時、一つの単位としてまとまろうとする働きにより、N1 のアクセント核が失われ、N2 の音韻情報によって、複合名詞 (N1・N2) 全体のアクセント型が決定される。つまり、アクセント核は一つだけ存在するので、そのアクセント核位置が分かれば、複合名詞のアクセント型を、単純語の様に予測できる (無核の場合は平板型になる)。

先行研究 (Higurashi 1983, Tsujimura and Davis 1987, 佐藤 1989, Poser 1990, 上野 1997, 秋永 2001) は、下記に示す様に、複合名詞 (N1・N2) を後部要素 (N2) が 2 拍 (モーラ) 以下の ‘短い’ 複合名詞と 3 拍以上の ‘長い’ 複合名詞に大別している。

#### ‘短い’ 複合名詞

- |             |   |               |
|-------------|---|---------------|
| 1. てんき+ず    | → | てんきず (天気図)    |
| 2. そうむ+か    | → | そうむか (総務課)    |
| 3. ネバダ+しゅう  | → | ネバダしゅう (州)    |
| 4. にゅうどう+くも | → | にゅうどうくも (入道雲) |

#### ‘長い’ 複合名詞

- |                 |   |                  |
|-----------------|---|------------------|
| 1. めぐ+くすり       | → | めぐくすり (目薬)       |
| 2. なまた+たまご      | → | なまたたまご (生卵)      |
| 3. こうつう+いはん     | → | こうつういはん (交通違反)   |
| 4. でんき+かみそり     | → | でんきかみそり (電気剃刀)   |
| 5. いせ+ものがたり     | → | いせものがたり (伊勢物語)   |
| 6. ワード+プロセッサー   | → | ワードプロセッサー        |
| 7. ぜんだま+コレステロール | → | ぜんだまコレステロール (善玉) |

先行研究の指摘には、それぞれの特徴がある。しかし、総じて ‘短い’ 複合名詞のアクセント型は、N2 個々の音韻情報によって異なるため予測が難しく、一方 ‘長い’ 複合名詞のアクセント型は、後部要素のアクセント核の位置が分かれば、ある程度予測可能であると指摘している。

稲葉 (2002) で、アクセント型が予測可能と考えられている ‘長い’ 複合名詞に焦点を絞り、NHK 編発音アクセント辞典・付録 (1998) から抜粋した ‘長い’ 複合名詞のアクセント型を韻律論の視点から議論した。そして、N2 が 3 拍と 4 拍の複合名詞のアクセント核は、第 1 フット核に置かれ、N2 が 5 拍以上の複合名詞のアクセント核は、最終フット核に置かれると一般化した。これらの一般化した規則に基づいた実用的な発

音指導について次に述べる。

#### 4. 3拍 $\leq$ N2 $\leq$ 4拍の複合名詞の発音指導

稲葉 (2002) で、N2 が3拍と4拍の複合名詞のアクセント核は、「N2 の第1フット核に置かれる。」と一般化した。ただし、学習者にフット核の概念を理解させるのは容易ではない。そこで、学習者には、複合名詞のアクセント核は、「N2 の第1音節 (核) に置かれる。」と説明して、まず次のようにN2 が3拍の範例を使って、音節の種類に従い、発音指導することを提案したい。下記は、「○○相手」、「○○映画」、「○○会議」等、○○の部分には適当な名詞が挿入されることを意味する。また、アクセント核は、音節構造に関係なく、全てN2 の第1音節 (核) に存在する。

N2=3拍

a. N2=[重 $\square$ ][軽]音節

○○相手、映画、会議、会社、楽器、監査、漢字、管理、休暇、競技、教師、業者、教授、金庫、金利、結核、言語、検査、元素、限度、行為、口座、講座、公債、工事、控除、コース、控訴、航路、国家、細工、雑誌、出資、証書、浄土、勝負、醤油、審査、神社、人種、水素、水路、政治、制度、政府、整理、繊維、選挙、争議、草紙、掃除、走者、装置、相場、草履、大使、大社、炭素、担保、地域、注射、調査、通貨、電気、電子、電車、電池、電話、道具、投資、動詞、投手、豆腐、道路、とんぼ、日記、年度、半紙、反射、描写、屏風、物資、兵器、変化、便所、奉仕、帽子、坊主、名詞、文句、融資、猶予、用語、用紙、曜日、料理、列車

b. N2=[軽 $\square$ ][軽][軽]

○○油、医学、意識、価格、化学、科学、係、学士、家族、活字、ガラス、為替、規則、記録、区域、暮らし、景色、ことば、座敷、時刻、地獄、仕事、施設、支度、島田、射撃、所得、汁粉、速度、組織、たばこ、だるま、手当、手形、ドラマ、羽織、はがき、博士、白書、幕府、美術、日和、フィルム、祭、身ごろ、息子、眼鏡、屋敷、輸出、レンズ

c. N2=[軽 $\square$ ][重]

○○委員、違反、家業、加減、加工、火山、課税、議員、機械、議会、期間、機関、企業、機嫌、記号、基準、規則、漁業、漁船、具合、供養、化粧、呼吸、作業、砂糖、作用、試合、次官、時間、事業、資金、試験、資産、市場、事情、地震、思想、次第、事態、時代、辞典、芝居、資本、自慢、社会、写真、茶わん、手段、襦袢、需要、所帯、処分、ずきん、住まい、相撲、訴訟、打者、地帯、地方、貯金、時計、値段、飛行、肥料、比例、歩合、符号、普請、婦人、部隊、舞台、布団、舞踊、保険、保証、補償、ボタン、麻酔、見舞い、模様、野球、預金、予算、旅行、話法

音節のパターンによって練習するのが、学習者の潜在能力を刺激し有効的だと考える。また、○○の部分、「まるまる」(低高高高)と言わせても良いし、学習者自身に適当な名詞を考えさせるのも面白い。例えば、学習者は、cの「委員」前部の○○部分に、「学級」を挿入して「学級委員」、cの「違反」前部の○○部分に、「交通」を挿入して「交通違反」などの複合名詞を作ることができる。その時、アクセント核がN2の第一音節(核)に置かれるので、「がっきゅう・い<sup>1</sup>いん」も「こうつう・い<sup>1</sup>はん」も、それぞれ(低高高高・高<sup>1</sup>低低)のアクセント型になることを確認することが大切になる。

さらに、N2が4拍の範例を使って、同じ様に音節の種類に従って、次に示すN2の範例を使って指導することを提案したい。下記は、N2が3拍の範例同様、「○○案内」、「○○運動」、「○○衛生」等、○○の部分は適当な名詞が挿入されることを意味する。また、アクセント核は、音節構造に関係なく、全てN2の第1音節(核)に存在する。

N2=4拍

a. N2=[重<sup>1</sup>][重]音節

○○案内、運動、衛生、演習、往生、外交、学校、合唱、関係、勘定、関税、看板、キーパー、教会、狂言、恐慌、競争、協定、銀行、金融、経営、経済、計算、警報、結婚、現象、公園、工業、高校、公債、交渉、行動、国会、債権、財産、財政、裁判、産業、宗教、出版、状態、商人、少年、商売、証明、神経、信号、新聞、尋問、水準、水晶、精神、せっけん、線香、前線、戦争、センター、体系、大根、大将、大臣、体操、団体、短調、長官、長調、賃金、鉄砲、天井、伝染、電報、闘争、投票、同盟、女房、人形、年金、農業、賠償、配当、売買、俳優、半球、番号、犯罪、判断、反応、販売、半分、仏教、分解、文法、弁当、奉公、褒章、方針、放送、包丁、饅頭、命令、問題、郵便、ようかん、料金、療法、連合、労働

b. N2=[重<sup>1</sup>][軽][軽]音節

○○演説、音楽、改革、階級、監督、教育、協力、金属、警察、芸術、契約、結核、建築、工学、攻撃、広告、産物、住宅、償却、小説、装束、条約、浄瑠璃、申告、人物、水域、生活、政策、戦術、相続、大学、中毒、動物、内閣、配達、番組、標識、文学、分析、貿易、報告、民族

c. N2=[軽<sup>1</sup>][軽][重]音節

○○革命、活動、活用、組合、計画、国民、撮影、質問、責任、鉄道、発電、役人、浴場

d. N2=[軽<sup>1</sup>][軽][軽][軽]音節

○○織物、剃刀、友達、羽二重、約束

e. N2=[軽<sup>1</sup>][重][軽]音節

○○ロケット、シリーズ、イニング、ロボット、マインド

N2 が 3 拍の範例同様、○○の部分は、「まるまる」(低高高高)と言わせても良いし、学習者自身に適当な名詞を考えさせるのも面白い。例えば、学習者は、e の「ロケット」前部の○○部分に、「月」を挿入して「月ロケット」、e の「シリーズ」前部の○○部分に、「ワールド」を挿入して「ワールドシリーズ」などと言える。その時、アクセント核が N2 の第一音節(核)に置かれるので、「つき・ロ<sup>1</sup>ケット」、「ワールド・シ<sup>1</sup>リーズ」と、それぞれ(低高・高<sup>1</sup>低低低)、(低高高高・高<sup>1</sup>低低低)のアクセント型になることを確認することが大切になる。

5. N2 ≥ 5 拍以上の複合名詞の発音指導

稲葉(2002)で、N2 が 5 拍以上の複合名詞のアクセント核は、最終フット核に置かれることを議論したが、学習者に最終フット核という概念を理解させるのは容易ではない。しかし、N2 が 5 拍以上の複合名詞の数は少ない。また、5 拍以上外来語のデフォルトアクセント型と一致するので、5 拍以上の外来語を使ってリズム指導することで補えると考えられる。そこで、まず 5 拍以上の外来語のアクセント型について述べる。ただし、5 拍以上の全ての外来語の音節構造を議論することは紙面の制限で不可能なので、5 拍の外来語に焦点を絞る。5 拍以上外来語のデフォルトアクセント型について、大多数の 5 拍の外来語の音節構造は、次の 8 種類に分けられる。

- |                                  |   |
|----------------------------------|---|
| a. [軽][軽][軽 <sup>1</sup> ][軽][軽] | 例：コミュニ <sup>1</sup> スト、セラピ <sup>1</sup> スト  |
| b. [重][軽 <sup>1</sup> ][軽][軽]    | 例：ヨーグ <sup>1</sup> ルト、ランド <sup>1</sup> セル   |
| c. [重][重 <sup>1</sup> ][軽]       | 例：パイロ <sup>1</sup> ット、ハイラ <sup>1</sup> イト   |
| d. [軽][軽][重 <sup>1</sup> ][軽]    | 例：カプチ <sup>1</sup> ーノ、アナウ <sup>1</sup> ンス   |
| e. [軽][重 <sup>1</sup> ][重]       | 例：コミ <sup>1</sup> ッション、カレ <sup>1</sup> ンダー  |
| f. [軽][重 <sup>1</sup> ][軽][軽]    | 例：コマ <sup>1</sup> ーシャル、グラ <sup>1</sup> ンプリ  |
| g. [軽][軽 <sup>1</sup> ][軽][重]    | 例：アレ <sup>1</sup> ルギー、コミュ <sup>1</sup> ニティー |
| h. [重 <sup>1</sup> ][軽][重]       | 例：パ <sup>1</sup> ースデー、パ <sup>1</sup> ートナー   |

(a, b, c, d) に示すアクセント型は、[-3]型規則(終わりから数えて 3 拍目まで高くする)に準じる型になる。ただし、(e, f) の様に、語尾から 3 番目のモーラが特殊拍(長音、撥音、促音)の時、アクセント核は前へ 1 モーラずれる。一方、(g, h) に示すアクセント型は、[-3]型規則に従わない。しかし、韻律音韻論の視点から考察すると、

次に示す韻律規則によって、(a) から(h) 全ての外来語のアクセント核位置が、同じ様に予測できる。フット (Foot) を基礎にした規則であることから、F[-3]型規則と呼ぶ。

### F[-3]型規則

- 語尾の音節は、韻律外性単位として韻律構造から無視する。
- 重音節に、二拍フットを構築する。
- 左に向かって、二軽音節上に、二拍フットを構築する。

上記規則を適用すると、下記に示すようにフットが構築される。

- |           |   |              |
|-----------|---|--------------|
| a. コミュニスト | → | (コミュ)(ニス)<ト> |
| b. ヨーグルト  | → | (ヨー)(グル)<ト>  |
| c. パイロット  | → | (パイ)(ロッ)<ト>  |
| d. カプチーノ  | → | (カプ)(チー)<ノ>  |
| e. コミッション | → | コ(ミッ)<ション>   |
| f. コマーシャル | → | コ(マー)シャ<ル>   |
| g. アレルギー  | → | ア(レル)<ギー>    |
| h. バースデー  | → | (バー)ス<デー>    |

(a) の「コミュニスト」と (h) の「バースデー」を例にとって、フット構築過程を具体的に説明する。

/コミュニスト/

/バースデー/

- 語尾の音節は、韻律外性単位として韻律構造から無視する。

コミュニス<ト>

バース<デー>

- 重音節に、二拍フットを構築する。

(適用されない。)

(バー)ス<デー>

- 左に向かって、二軽音節上に、二拍フットを構築する。

(コミュ)(ニス)<ト>

(適用されない。)

以上の様に、5 拍外来語のアクセント核は、最終 2 拍フット核上に置かれると一般化できる。

ただし、学習者に最終フット核という概念を理解させるのは容易ではない。そこで、まず比較的アクセント核位置が予測し易い外来語を使って発音指導することを提案する。例えば、(a, b, c, d) の様な[-3]型規則 (終わりから数えて 3 拍目まで高くする。) に準じる型を使って発音指導をする。そして次に (e, f) の様な語尾から 3 番目のモーラ

が特殊拍（長音、撥音、促音）でアクセント核が前へ1モーラずれる型の外来語を使って発音指導をする。最後に、(g, h) の様に、従来の[-3]型規則に従わないリズム型を導入する。その時、アクセント核位置だけを示して指導するだけでなく、フットを丸括弧で示して指導すれば、リズムを視覚的に指導できるので、さらに有効的な発音指導が可能になると考える。

以上のように、‘長い’複合名詞のアクセント型の発音指導法を提案したが、次にアクセント核位置を単純には予測できない‘短い’複合名詞のアクセント型の発音指導法を提案する。

## 6. N2 ≤ 2 拍以下の‘短い’複合名詞の発音指導

先行研究は、2 拍以下の‘短い’複合名詞は、N2 の個別音韻情報によってアクセント型が異なるためアクセント型の予測が難しいと指摘している。基本的には、学習者は、それぞれの‘短い’複合名詞のアクセント核位置を記憶して置く必要があると考えられるが、アクセント型は次に示す 3 種類に大別できるので、種類別に、ある順番に従い、発音指導すれば効率的だと考える。

### a. 前部要素の最終音節にアクセント核を置くとされる複合名詞

#### 1. 後部要素が一拍

にゅうじ+き → にゅうじ (乳児期)

#### 2. 後部要素が二拍

ネバダ+しゅう → ネバダ (ネバダ州)

### b. 後部要素の第一音節にアクセント核をおくされる複合名詞

#### 1. 後部要素が一拍

さんこう+しょ → さんこうしょ (参考書)

#### 2. 後部要素が二拍

にゅうどう+くも → にゅうどうぐも (入道雲)

きょうと+おび → きょうとおび (京都帯)

### c. 全体が平板化するとされる複合名詞

#### 1. 後部要素が一拍

そうむ+か → そうむか (総務課)

#### 2. 後部要素が二拍

のら+いぬ → のらいぬ (野良犬)



まず上記のアクセント型の中で、どの型が一番多いのかを確かめるため、NHK 発音アクセント辞典 (1998) から抜粋した N2 要素を含む複合名詞を考察した。複合名詞 (N1・N2) のアクセント型は、後部要素 (N2) の音韻構造によって決まるので、後部要素だけをアクセント型と長さに別け下記に示す。○○の部分には適当な名詞が挿入されることを意味する。(二つ以上のアクセント型が表記されている時は、最初に記載されている型を選んだ。また○○湖、○○川、○○山などの複合した地名はここに含まれていない。)

後部要素 (N2) が一拍 (1モーラ)、あるいは二拍の複合名詞 (N1・N2)

a. 前部要素 (N1) の最終音節にアクセント核を付加するとされる複合名詞

1. 後部要素 (N2) が一拍 :

○○医、記、期、旗、機、死、詩、氏、士、師、詞、誌、児、手、凶、地、費、婦、部簿

2. 後部要素 (N2) が二拍 :

○○域、員、院、駅、園、炎、音、会、界、街、学、楽、感、館、官、漢、観、岩、眼、客、魚、業、局、口、軍、芸、劇、権、圏、港、号、国、祭、債、材、財、策、式 (儀式、数式)、室、質、社、州、集、商、省、抄、城、職、人、筋、生、税、奏、層、族、談、団、庁、天、伝、殿、年、内、難、犯、札 (ふだ)、文、分、面、網、門、率、律、料、領、寮、力、録

b. 後部要素 (N2) の第一音節にアクセント核を付加するとされる複合名詞

1. 後部要素 (N2) が一拍 :

‘記載無し’

2. 後部要素 (N2) が二拍 :

○○雨、帯、傘、雲、主義、樹脂、趣味、汁、知事、杖 (づえ)、鶴 (づる)、都市、針、扶助、窓、屋根

c. 全体が平板化するとされる複合名詞

1. 後部要素 (N2) が一拍 :

○○科、家、化、課、画、間 (ま)

2. 後部要素 (N2) が二拍 :

○○犬、色、顔、型、側、艦、級、教、橋、鏡、際、金、組、計、犬 (けん)、語、小屋、産、式 (方式)、縞、上、場、性、制、製、体、帯、隊、代、足袋、玉、段、中、鳥 (ちょう)、帳、調、的、刀 (とう)、湯 (とう)、灯、糖、板、盤、表、標、病、風、節、部屋、骨、本、米 (まい)、まね、向き、用、力、流

全体が平板化する複合名詞も比較的多いが、前部要素 (N1) の最終音節にアクセント核を付加する複合名詞が一番多いことが分かる。換言すると、N2 が 2 拍以下の ‘短い’

複合名詞のデフォルトアクセント型は、前部要素 (N1) の最終音節にアクセント核が置かれると言える。

そこで、まず前部要素 (N1) の最終音節にアクセント核を付加する複合名詞を使って発音指導をすることを提案する。‘長い’複合名詞の様に、○○の部分には、「まるまる」と言わせてもいいが、学習者自身に適当な名詞を考えさせるのも面白い。例えば、学習者は、「○○医」前部の○○部分に、「外科」を挿入して「外科医」、「○○科」前部の○○部分に、「耳鼻」を挿入して「耳鼻科」などの複合名詞を作ることができる。その時、アクセント核が N1 の最終音節 (核) に置かれるので、「げか<sup>1</sup>・い」も「じび<sup>1</sup>・か」も、それぞれ (低高・低) のアクセント型になることを確認することが大切になる。もし前部最終要素が、つまる音 (ツ)、はねる音 (ン)、長音 (ー)、二重母音後部などの特殊拍の場合は、左に 1 モーラずれることを確認する。例えば、N1 が「専門」、N2 が「医」の時、アクセント核は、「せんもん」の最終拍「ん」の上に置かれるのではなく、左に 1 モーラずれ、「も」の上に置かれるので、アクセント型は、「せんも<sup>1</sup>ん・い」(低高高低・低) になることを確認する。もちろん、音節という単位を考えれば、「N1 の最終音節 (核) にアクセント核が置かれる。」という一般化した規則に従っていることが分かる。

次に範例数が多い「全体が平板化するとされる複合名詞」を使って発音指導をすることを提案する。やはり学習者自身に適当な名詞を考えさせるのも面白い。例えば、学習者は、「○○犬」前部の○○部分に、「柴」を挿入して「柴犬」、「○○色」前部の○○部分に、「黄」を挿入して「黄色」などの複合名詞を作ることができる。その時、無核なので、「しば・いぬ」と「き・いろ」は、それぞれ (低高・高高)、(低・高高) の平板型になることを確認することが大切になる。

最後に、範例数が少ない「後部要素 (N2) の第一音節にアクセント核を付加するとされる複合名詞」を導入することを提案する。この型の範例数は比較的少ないが、「にわか・あ<sup>1</sup>め」、「にゅうどう・ぐ<sup>1</sup>も」、「みんしゅ・しゅ<sup>1</sup>ぎ」、「あく・しゅ<sup>1</sup>み」、「けん・ち<sup>1</sup>じ」など役に立ちそうな複合名詞は発音指導に必ず含めるべきだと考える。

## 7. さいごに

稲葉 (2002) の提言に基づき、複合名詞を使った実用的な発音指導法を提案した。N2 が 3 拍と 4 拍の複合名詞は、範例数も多く、また N2 が 3 拍、4 拍の複合名詞として認識し易い。しかし、比較的長い複合名詞の中には、N2 が 5 拍以上として、誤って判

断され易い複合名詞が存在する。例えば、「児童心理学」(じどうしんり<sup>ㄊ</sup>がく)や平板型の「南極探検隊」(なんきょくたんけんたい)などが挙げられる。意味的には、「児童・心理学」、「南極・探検隊」として区切られるので、先行研究でも、N2 が 5 拍以上として判断され、保存型として扱われた。しかし、音韻的には、「児童心理・学」、「南極探検・隊」として区切られ、N2 が 2 拍以下の‘短い’複合名詞として取り扱われるべきである。NHK 編発音アクセント辞典・付録 (1998) には、「学」は、「前部要素 (N1) の最終音節にアクセント核を付加するとされる複合名詞」に含まれている。また「隊」は、「全体が平板化するとされる複合名詞」に含まれている。この様に、N2 が 5 拍以上の複合名詞か否かの判断が難しい場合や、N1・N2・N3 と 3 要素が複合する場合がある。基本的に、複合名詞全体のアクセント型は最終要素によって決定される。例えば、冒頭で挙げた「外務省」の「省」は、2 拍なので、‘短い’複合名詞と判断される。そして、「前部要素 (N1) の最終音節にアクセント核を付加するとされる複合名詞」に含まれるので、「がいむ<sup>ㄊ</sup>・しょう」(低高高・低低)となる。一方「外務省改革」の場合、最終要素「改革」が 4 拍なので、‘長い’複合名詞と判断され、アクセント核は、「改革」の第 1 音節 (核) に置かれる。そこで、一つの単位にまとまった「がいむ・しょう・か<sup>ㄊ</sup>いかく」(低高高・高高・高低低低)となる。さらに、冒頭でも挙げた「医療制度、医療機関、医療費負担、資金管理団体、単独採決、政治献金」は、N2 が 3 拍、4 拍として判断できれば、N1、N2 のアクセント核位置に関係なく、アクセント核位置を、「いりょう・せ<sup>ㄊ</sup>いど」、「いりょう・き<sup>ㄊ</sup>かん」、「いりょう・ふ<sup>ㄊ</sup>たん」、「たんどく・さ<sup>ㄊ</sup>いけつ」、「せいじ・け<sup>ㄊ</sup>んきん」として、簡単に予測でき、それに従ってアクセント型も予測できる。

本稿では、複合名詞を使った発音指導を提案したが、N2 が 3 拍と 4 拍の大多数の複合名詞には漢字が使われているので、さらに漢字練習の一部として利用することもできる。一般的に、アクセントに配慮した漢字練習は少ないので、アクセント型と漢字の組み合わせは、学習者にとって有益だと考える。

最後に、複合名詞は N1 と N2 が複合してできるという性質上、N1 と N2 の結合度合いで、N1、N2 のアクセント型が保存されることも十分あり得るし、また、原語のアクセント型がそのまま保存されることも考えられる。例えば、N2 が四拍で、「やまと・なで<sup>ㄊ</sup>しこ」や「えど・むら<sup>ㄊ</sup>さき」、五拍以上で平板(無核)型「ニュー・カレドニア」や頭高型「ニュー・イ<sup>ㄊ</sup>ングランド」などの例外が存在する。この様なアクセント型が保

存される例が存在することは避けられない。そこで日本語学習者にとって、複合名詞の基本になるアクセント型を学ぶ一方で、どの複合名詞のアクセント型が‘例外’なのかをはっきり見極めることも大切である。またアクセント型には、ある程度の‘ゆれ’（秋永 1999）が許容されるので、違ったアクセント型も許容され得ることを利用したアクセント指導も考えられる。例えば、NHK 発音アクセント辞典・付録（1998）には、「にわか雨」は、「後部要素（N2）の第一音節にアクセント核を付加するとされるアクセント型（にわか・あ<sup>1</sup>め）」が最初に記載されているが、数が一番多い「前部要素（N1）の最終音節にアクセント核を付加するとされるアクセント型（にわか<sup>1</sup>・あめ）」も記載されている。韻律音韻論から見た‘ゆれ’に関する研究は将来の課題としたい。

#### 注

1. 音節は、聞こえ度に従い決定されると考える。また、ドメイン内で長音、あるいは異なった母音が連続する時、これらの二連母音がそれぞれ独立した音節に属するの否かについての議論は、本稿での焦点ではないので割愛する。本稿では、二連母音は一音節を構成するものとして扱った。
2. NHK 発音アクセント辞典・付録（1998）は、N2 が[軽][軽][軽][軽]音節構造から成る要素として、「哲学」を挙げている。そして、アクセント核位置が「て」にあるものを先に挙げている。一方、本節では、「つ」にアクセント核があるものを先に挙げている。そこで、本稿では、「つ」にアクセント核がある方を優先した。

#### 参考文献

- 秋永一枝（1999）『東京弁アクセントの変貌』笠間書院
- \_\_\_\_\_（2001）「東京アクセントの法則について」『新明解日本語アクセント辞典』三省堂
- 稲葉生一郎（2002）「‘長い’複合名詞のリズムとアクセント：韻律音韻論からの考察」『世界の日本語教育』第12号 163-74
- 上野善道（1997）「複合名詞から見た日本語緒方言のアクセント」杉藤美代子編『日本語音声2』231-270 三省堂
- 佐藤大和（1989）「複合語におけるアクセント規則と連濁規則」杉藤美代子編『日本語の音声・音韻(上)』233-265 明治書院
- NHK（編）（1998）「複合名詞と発音とアクセント」NHK放送文化研究所・編『日本語アクセント辞典』NHK出版
- Hayes, Bruce. (1995) *Metrical Stress Theory (Principles and Case Studies)*. Chicago: The University of Chicago Press.

- Higurashi, Yoshiko. (1983) *The accent of extended word structures on Tokyo Standard Japanese*. Tokyo: Educa Inc.
- Poser, J. William. (1990) Evidence for foot structure in Japanese. *Language* 66:78-105.
- Tsujimura, Natsuko, and Stuart Davis. (1987) The accent of long nominal compounding in Tokyo Japanese. *Studies in Language* 11(1): 199-217.